

## 第4回 生物多様性神戸プラン推進委員会 議事録

1. 開催日時 平成29年11月28日(火) 9時30分～12時00分

2. 開催場所 再度公園(神戸市北区山田町下谷上)

3. 出席者 武田委員、安井委員、山本委員、長岡委員、平岡委員、斉藤委員

4. 再度山における「こうべ森の学校」の活動について

### ●建設局森林整備事務所

【再度山の概要および「こうべ森の学校」の発足について説明】

- ・阪神淡路大震災後に、市民団体による森林ボランティアの機運が高まった。
- ・企業でもCSR活動によるイメージアップを図りたい。
- ・行政も、森林管理に必要な財源の確保が難しい。
- ・三者のニーズが一致してこうべ森の学校が立ち上がった。行政は、市有林を提供、市民団体は労力とアイデアを提供、企業は活動資金を提供。

### ●こうべ森の学校 藤原代表

【こうべ森の学校の活動内容について説明】

- ・活動内容は、除間伐や植樹による森林再生・除間伐材の有効利用・自然学習支援・他団体活動への参画・広報活動等。
- ・参加者の安全教育を重視。技術的指導や道具の手入れ等。
- ・活動頻度は高い。週3日間に加え、月例会もある。
- ・活動に使う器材は、木工機器等も含めて伊藤ハム(株)の助成によるもの。
- ・伊藤ハム(株)社員の他、シルバーカレッジ、消防学校や私立中学の受け入れも実施。今後受入数を広げていきたい。
- ・これまでの14年間に5～6万本の木を伐ったが、活動フィールドが広いため、まだ不十分。



《ログハウスにて、団体概要の説明》

●平岡委員

活動を支援している企業は伊藤ハム(株)さんだけですか。

●森林整備事務所

「こうべ森の学校」とは別に、再度山において、森林整備事務所が子どもたちを対象にした「こうべ森の小学校」という活動も行っている。「こうべ森の小学校」の活動資金は、アサヒ飲料(株)に提供いただいている。

●平岡委員

ボランティアはどのように募集しているのか。

●森林整備事務所

市のホームページや広報紙等で案内している。その他、知り合いのつながりで参加する方も多い。

●平岡委員

会員は何名くらいか。

●藤原代表

約 100 名。普段の活動日の参加者は 15～16 名ほど。

●森林整備事務所

月例会には 50 名ほど集まる。

●藤原代表

気候の良い時期には多く集まるが、年間を通してコンスタントには集まらない。通りかかったハイカー等に評価されると、モチベーションの向上につながる。

●森林整備事務所

ハイカーにツツジや紅葉が美しくなったと言われることがある。森の学校の活動と無関係ではないかもしれない。

●武田委員

世代交代がうまく進んでいるようだが、なにか工夫はあるか。

●藤原代表

役員の任期を決めることで交代を促している。私もまだ活動 4 年目である。

●武田委員

役員を交代できるほど、人が集まっていることが素晴らしい。

●藤原代表

知り合いの口コミが大きいと思われる。主な戦力は定年後の世代だが、近年は定年が上がり、新しい人が入らなくなる要因となっている。

土曜日であれば、働き盛りも来られる。親子連れ等、若い世代もターゲットにしたい。

●森林整備事務所

たとえば、森の小学校に参加してくれた親子をターゲットに、子どもが独立した後の親世代を取り込みたいと、考えている。

●藤原代表

ボランティアの世代交代の問題は、全国的な問題である。

●平岡委員

参加者の再度公園までの交通手段は。

●藤原代表

自家用車が多い。その他、ふもとから歩いて登る参加者もいれば、バスを利用する参加者もいる。途中での合流や離脱を認めており、個人の可能な時間帯で好きな時間に活動してもらっている。

●山本委員

伐木には技術がいると理解している。マニュアルを拝見したが、素晴らしい内容である。スキルアップには誰の指導を受けているのか。

●藤原代表

基本的に先輩の経験を伝授することとし、定期的に技術指導を行っている。特に、道具を正しく使うことを重視している。たとえば、のこぎりの使い方が悪い状態で、無理に力を加えると体のバランスを崩す。また、のこぎりやはさみの切れ味が悪くても事故のもとになるので、手入れは入念に行う。技術研修は通年 6 回ほど、あと年 1 回救急救命講習を実施している。

●山本委員

チェーンソーは使わないのか。

●森林整備事務所

団体のルールとして、動力を使わないこととしている。動力が必要とされるような大きな木は、森林整備事務所の直営また請負で処理している。

●藤原代表

胸高直径 15cm までしか切ってはいけない、というルールを定めている。スギ・ヒノキのようなまっすぐな木は、倒す方向を定めやすいが、特に枝を広げた太い木は倒すのが難しく危険度が増すため。

●長岡委員

説明いただいた私立の学校以外に受け入れ実績はあるか。

●藤原代表

竹の台小学校を受け入れた。

●森林整備事務所

熱心な先生がいれば、向こうから相談が来る。逆にこちらから、呼びかけても学校側の反応があまりない。

●山本委員

活動地の生きもの調査を実施して、データを収集・管理しているか。

●藤原代表

個人で作っている人がいるが、団体としてはやっていない。範囲が広いため、なかなかそこまではできない。ただ、生きものに関する知識は持っている方が好ましい。ハイカーにも説明できるようにしたいと考えているので、定期的に講師を呼んだり、自然観察を行ったりしている。

●森林整備事務所

人と自然の博物館の橋本佳延先生（推進委員会委員）に、5 年ごとに永久植生保存地の植生調査を実施していただいている。

【伐木作業等を見学】



《木工工作の作業小屋》



《伐木作業 ロープを使って倒す方向を定める》

●平岡委員

伐った木は運び出すのか。

●藤原代表

木材として木工等に使用する木は運ぶが、それ以外は、短く切ってその場に残す。

●長岡委員

伐る木はどのように優先順位を決めるのか。

●藤原代表

先月の台風の影響が大きかったため、今はハイキングコースに面していて、倒れる恐れのある樹木を優先している。

●森林整備事務所

活動目的は生物多様性保全ではないのだが、結果的にそうになっている。

●藤原代表

時代にあわせて、団体の活動目的も少しずつ変化してきている。

●長岡委員

それぞれの会員がボランティアを始めたきっかけは？

●藤原代表

自然が好き、という方が多い。他には、木を伐るのが楽しい、という方も。稀有ではあるが、生物多様性保全のため、という方もいる。

入会当初は、何もわからず言われるままに動いていた方も、活動への理解が深まってくると、こういう森にしたい、こういうことをしたい、と考えてくれるようになる。

●斉藤委員

どの木を伐ったらよいか選定が難しそうだが、どう判断するのか？

●藤原代表

対象となる樹木は、ヒサカキ等の常緑樹である。落葉広葉樹は残して明るい森にする。常緑樹も全て伐採するわけではなく、適度に残す。

●山本委員

活動地にはカシノナガキクイムシが侵入しているか。侵入しているとすると、どのような対策をとっているか。

●藤原代表

再度山にも侵入している。積極的な対策ではないが、樹木自体の免疫力に頼っている。老木大木についての処理は、森林整備事務所に報告、依頼している。

●森林整備事務所

神戸の東西からカシノナガキクイムシが侵入しており、兵庫県も対応が間に合っていない状況である。

●山本委員

須磨で活動をしているが、この夏カシノナガキクイムシを確認した。コナラが特に被害を受けている。

●武田委員

コナラが先にやられやすい。アベマキはもう少し強い。アラカシ等の常緑樹にも入るが、コナラほどは入らないし、入っても枯れない。

ヒノキ等の間伐材はどう処理しているのか。

●森林整備事務所

ハイキングコースの階段や案内板等に活用している。